

2023.3.16



地域日本語支援ニュース こだま 第 429 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

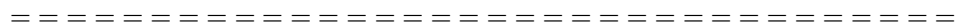


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■ともに生きる：大阪府大阪市から■

2022年4月、大阪府で8番目の「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校としてスタートを切った大阪わかば高校では、教科として「自己実現のための日本語」を設定し、日本語指導を行っています。「日本語ができない」のではなく、「複数言語ができる」生徒たちの可能性を最大限に引き出す大阪わかば高校での取り組みについて、同校教諭の甲田菜津美先生にご寄稿いただきました。



無限大の可能性を持つ子どもたちのために
大阪府立大阪わかば高等学校教諭
甲田 菜津美

◆大阪わかば高校について

大阪わかば高校が位置するのは、大阪市生野区。コリアンタウンを有する生野区は、外国籍住民が市内で最も多い区であり、元々は在日コリアンの居住区でしたが、近年ニューカマーも増えつつあり、区役所の取り組みで「やさしい日本語」が推奨されるなど、多文化共生の街として発展しつつあります。そんな大阪わかば高校（以下、わかば）は、2020年度に新設された多部制単位制1,2部の定時制高校であり、2022年4月、大阪で8番目の「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校（以下、枠校）となり新たなスタートをきりました。

◆大阪の「枠校」

大阪での枠校の始まりは、2001年度の「中国等帰国外国人選抜」です。当時2校でスタートし、さまざまな経緯を経て現在の「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」に名称が変わり、段階を経て8校に増えました。この選抜が受けられる生徒は「原則として、中国から帰国した者または外国籍を有する者で、小学校第4学年以上の学年に初めて編入学した者」です。配慮としては、辞書の持ち込み、学力検査時間の延長、検査問題へのルビ打ち、キーワードの外国語併記があります。また、検査科目は「数学」「英語」「作文」の3つですが、作文では日本語以外での記述が可能です。

枠校においては、母語が話せる教員による母語の授業が開講されるのも特徴です。生徒一人ひとりを大切にする大阪ならではの授業ではないでしょうか。

◆わかばでの日本語カリキュラム

日本語指導が必要な生徒を受け入れるにあたって、日本語指導に関する科目を新たに設けました。学校設定教科として「自己実現のための日本語」を、生徒たちの夢が実現することを願って設定しました。生徒たちの持っている力を複数言語で多角的・包括的に捉え、評価していくカリキュラムを「わかば日本語モデル」として授業に取り組んでいます。バイリンガル教育理論を基盤にされている「多文化アイデンティティ・プログラム」（櫻井 2022）を基に、内容重視のアプローチや段階的読書プログラムをおこなっています。さらに、必修科目の大半でやさしい日本語のクラスを開講しています。

また、地域のNPOや専門家、行政担当者で定期的に会議を開き、わかばの生徒をはじめとして地域活性化について考える機会を設け、学校内外から生徒たちを包括的に支援する体制をとっています。

◆わかばの日本語指導が必要な生徒たち

2022年度、7言語にそれぞれルーツのある生徒たちがわかばに入学しました。ルーツも日本語のレベルも日本で過ごしてきた期間もさまざまな生徒たちが一堂に会し、学びを共にしています。

日本語を話すことは得意でも読み書きに苦手意識のある生徒、まだ日本に来て1年も経たない生徒、兄弟の面倒を見ながらアルバイトもしている生徒など、実に多様な生徒たちがいます。

日本の中学校に通ったことのある生徒たちと、放課後補習をしていたときのできごとです。ある生徒が、実は中学校の時にいじめられていたということを語り始めました。すると、周りにいた生徒が次々に自分も実はいじめられたことがある、と共感し始めました。今はのびのびと学校に来て授業を受けている生徒たちであっただけに、私は驚きを隠せませんでした。たくさん傷ついてきている生徒たちだということに改めて気づかされました。この子たちが自信をもち、将来に夢を持ち前向きに生きていくことのできる学びの環境を提供することが我々教員の使命だとも感じました。

「現代の国語」の初回、高校生で勉強すべき内容を考える授業を行いました。受講している全員が、自分たちの将来に必要な内容を真剣に考えていました。出てきた内容は防災や平和、メディアリテラシーなど、実に豊かな学びのトピックです。さらに生徒たち自ら、なぜこれらの勉強が必要なのかを発表したいと声をあげ、急ぎょプレゼンテーションをすることにもなりました。

生徒たちの学びへ向かう力の強さを感じました。

◆公正な学びのために

日本語指導が必要な生徒たちは、「日本語ができない」「勉強ができない」とネガティブに見られ、傷つけられてきていることが少なくありません。今まで自分に自信が持てず、自分を認めてもらえる環境がなかなかなかったことに起因します。生徒の可能性を信じ、生徒の持っているすべての力を捉えて、生徒同士が励まし合える環境があることが求められます。そのためにも周囲の大人が、この子たちを日本語ができない生徒と捉えるのではなく、複数言語ができる生徒と捉えることで、生徒たちは無限大の力を発揮していきます。

わたしたち大人が意識改革をして変わっていかなければなりません、すべての子どもたちの公正な学びのために。
